

RICOH REPORT 2012

夏号

- 1 一目で分かるリコー
- 3 **トップメッセージ**
 - 7 決算レポート
- 9 **事業紹介** ▶ **事業領域を拡げ、新しい価値を提供**
 - 11 リコーグループの環境経営
 - 13 リコーグループのCSR
- 15 **ニュースファイル** ▶ **リコーグループのカメラ事業推進体制を再編成**
 - ▶ **インドにITの研究所を設立**
 - ▶ **カラープロダクションプリンター[RICOH Pro C901/901S]省エネ大賞受賞**
- 17 株主様アンケート結果のご報告
- 18 株主様向け企画のご報告

一目で分かる リコー

リコーグループは
情報を取り扱うすべてのお客様に
リコーバリュー(「地球にやさしい」
「人にやさしい」「知識創造を簡単に」)を
具体化する製品・サービスを
提供してまいります。

コーポレート
ブランド
タグライン

RICOH
imagine. change.

リコーは、グローバルでの企業イメージをさらに強化するため、このほどリコーグループの新しいコーポレートブランドタグライン「imagine. change.」を制定し、これを活用したコミュニケーションを開始いたしました。

「imagine. change.」は、想像力(imagine)の結集で、変革(change)を生み出し、お客様に新しい価値を提供していきたいという思いを込めています。

リコーはお客様の仕事や暮らしをより良くする新しい考え方、新しい方法を生み出し、常に進化しています。想像力豊かな発想こそ変革の原動力であり、これがリコーブランドの核心であると考えています。

「imagine. change.」を通して、一貫性をもったコミュニケーションを継続することにより、統一されたリコーグループのグローバルブランドを確立することを狙いとしています。

世界 **1** 位
(2011年)

A3 MFP
(単機能コピー機を含む)
世界シェアランキングで
1位 (IDC調べ)

出典: IDC's Worldwide Quarterly
Hardcopy Peripherals Tracker, 2011Q4

欧州極

39,254件

国内外特許保有権利数
(2012年3月31日現在)

1兆9,034億円

連結売上高
(2012年3月期)

サステナビリティ

社会から愛され、成長と発展を望まれる企業を目指し社会的責任経営を実践しています。

4年連続選出

「世界で最も倫理的な企業」に4年連続選出

8年連続選出

「グローバル100 (世界で最も持続可能な100社)」に8年連続選出

9年連続採用

FTSE4Good Index Seriesに9年連続採用される



グローバルネットワーク

リコーグループは、日本、米州、欧州、中国、アジア・パシフィックの5極体制により、世界約200カ国で地域に密着した事業を展開しています。

2年連続選出

IDCによる分析でMPS分野で2年連続リーダーに選出される

- 販売・サポート
- ▲ 研究開発
- 生産

約200カ国

事業展開する国、地域 (2012年3月31日現在)

未来を見据えて お客様の期待を超える イノベーションに挑戦します。

代表取締役 社長執行役員
近藤 史朗



RICOH
imagine. change.

リコーグループは2012年4月より「imagine. change.」という新しいブランドメッセージを掲げています。

私たちがどのように力を合わせて、どのようにお客様に新しい価値をお届けするのか。“imagine”と“change”という簡潔で力強いふたつの動詞で表現しました。

私たちの創造性と、未来を見据えた発想で、より良い未来を切り拓く。そのような強い想いが「imagine. change.」には込められています。お客様が知識や想像力を結集させて大きな力を発揮し、事業や生活に変革をもたらす。この願いを実現する答えが「imagine. change.」です。

「経済」「社会」「環境」の3つの 側面から企業価値を向上

私たちの前には社会全体で取り組まなければならない問題がいくつも積み重なっています。

リコーグループは、企業活動をとらえて経済価値を創出すると同時に、社会が抱える問題の解決にも積極的に貢献してまいります。社会からの要請に応え、社会の発展に役立つことで、世界中の人々から将来にわたり存続を望まれる企業であり続けることができると確信しています。

企業が成長をつづけることと、持続可能な社会の実現は一对にあると考えています。リコーグループは、経済、社会、環境、それぞれに対する価値の創出に取り組みます。そして、新たな技術革新や事業モデルを実現するイノベーションにより

継続的に企業価値を高めてまいります。

- 企業価値向上に関する基本的な考え方
- 「経済」「社会」「環境」の3つの側面から企業価値を向上-



第17次中期経営計画の基本戦略

第17次中期経営計画(2011年度から2013年度まで)では、『グローバルブランドを目指して新たなイノベーションで未来を拓く「成長」と「体質改造」の同時実現』というスローガンのもと、「事業の創造と集中」と「高効率経営の実現」という2つの基本戦略を実行しています。

事業の創造と集中

製品(モノ)とサービス(コト)の強化によるお客様価値の増大

画像&ソリューション分野における複写機/複合機やプリンターなどについては、環境負荷低減をはじめとした製品力の強化と文書管理などのソリューションの充実により、さらに強固な基盤事業とします。また、ドキュメントの周辺にあるITサービス、コミュニケーションへと領域を広げて、お客様に提

供する価値を増大します。

プロダクションプリンティング事業の拡大

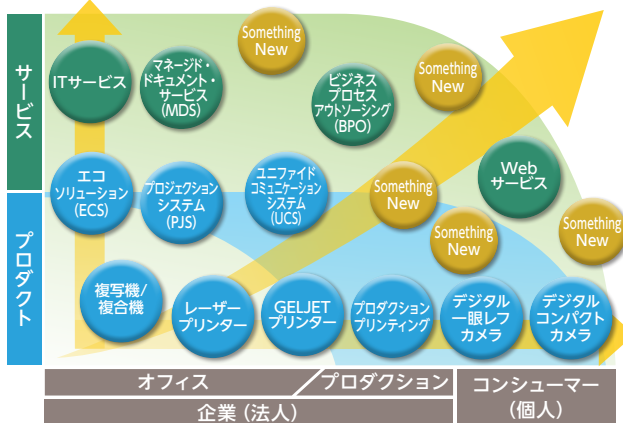
プロダクションプリンティング事業に関しては、製品群の拡充を継続するとともに、販売や開発の体制を強化し、収益の増大を加速します。

新興国市場における事業の成長

新興国市場においては、市場特性に応じた製品群を充実させるとともに、開発・生産のさらなる低コスト化を進めています。また、アジアを中心に販売体制を増強し、事業を伸ばします。

■ 事業領域拡大の方向性

— 製品(モノ)とサービス(コト)を強化 —



高効率経営の実現

事業環境の変化に対応しつつ、さらなる成長へ向けた強靱な経営体質を築くために、「販売体制の効率化」、「生産拠点の統廃合」、「不採算事業の見直し」、「あらゆる業務を対象にしたリエンジニアリング」、「人員配置の見直し」、「グローバル集中購買の促進」、「開発手法の改革」などの構造改革を進めております。

目標値

こうした戦略を実行し、第17次中期経営計画の最終年度には次の目標を達成したいと考えています。

■ 業績目標値(2013年度)

売上高	2兆1,000億円以上
営業利益	1,500億円以上
営業利益率	7.1% 以上
ROE	10.0% 以上
FCF	+1,000億円以上
総還元性向(配当+自社株)	約30%
為替レート	\$=¥75.00、euro=¥105.00

記載されている計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、2012年5月22日会社説明会時点で入手可能な情報に基づく、将来の業績に関する見通しになります。

2012年度における取り組み

第17次中期経営計画の2年目にあたる2012年度は、新たな成長軌道に乗るための重要な1年と位置づけています。東日本大震災、タイの洪水、円高などの影響を克服するとともに、事業領域の拡大に伴う新たな競合も交えた厳しい競争に打ち勝つ経営の礎を再構築するために、次の3つの課題に重点的に取り組みます。

体質改造のさらなる加速

従来経費削減、重複する機能の解消、人員配置の見直しに加えて、あらゆる業務を対象にそのあり方を抜本的に改善します。ICT(Information and Communication Technology)を活用した業務の中抜き、あるいは業務そのものの廃止などにより事業運営に関わるコストを低減します。

また、先に述べた販売体制の効率化、生産拠点の統廃合、不採算事業の見直し、グローバル集中購買の促進、開発手法の改革といった構造改革を確実に実施してまいります。

収益基盤の強化

基盤であるオフィスに向け事業の周辺に存在する成長の機会を取り込みます。具体的には、マネージド・ドキュメント・サービス*、ITサービス、プロジェクター、ビデオ会議システムなどの事業を強化します。また、複合機やプロジェクターなどとスマートフォンやタブレット型パソコンなどが連携する機能を充実します。

既存と新規の製品やサービスを組み合わせることで価値を増大し、リコーグループの大きな強みであるお客様との接点を活かしてその価値を提供します。

リコーグループは、そうした活動をとおして、お客様におけるコミュニケーションや働き方に変革をもたらす存在でありたいと考えています。

多様な新興市場の開拓には、現地が望む機能や価格から技術に遡り製品やサービスを創り込むとともに、販売体制を強化します。

* マネージド・ドキュメント・サービス
お客様の文書に関わる運用管理業務を受託し、コスト削減と生産性向上を実現するサービスです。さらには、文書の作成、活用、保管などの業務を可視化、分析し、改善を提案することで、お客様の抱える課題を解決に導きます。

新規事業の育成

新規事業の重点領域を次の3つとします。これまでの蓄積や既存事業との相乗効果を活かし、新規事業を効率的に育成します。

- **オフィスのあり方や働き方に変革をもたらす ワークプレイスイノベーション領域**
(プロジェクトシステム、ユニファイド・コミュニケーションシステム、LED照明など)
- **光学や感熱技術に基づいた高度な機能部品・材料を提供するインテリジェントセンシング領域**
(光学デバイス・モジュール、リライタブルハイブリッドメディアなど)
- **個人を対象にカメラ技術や関連するサービスの提供により画像や映像の新しい活用方法や楽しみ方を創造するビジュアルレボリューション領域**
(デジタル一眼レフカメラ、デジタルコンパクトカメラ、レンズなど)

3つの重点領域

オフィス市場
ワークプレイス
イノベーション

産業市場
インテリジェント
センシング

コンシューマー市場
ビジュアル
レボリューション

現在の主な製品/サービス

- プロジェクションシステム
- ユニファイドコミュニケーションシステム
- エコソリューション (LED照明など)

- 光学デバイス/モジュール
- サーマルメディア
- 電子デバイス

- デジタルコンパクトカメラ
- デジタル一眼レフカメラ
- レンズ、関連サービス

連結業績の概況

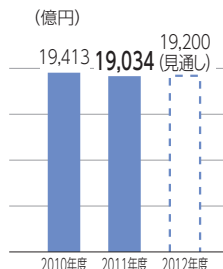
売上高は東日本大震災やタイの洪水による影響、また急激な円高もあり、前年度に比べて2.0%減少し19,034億円となりました。売上総利益は、継続的なコストダウンの成果はあるものの、売上高の減少や円高の影響などにより、前年度に比べて4.6%減少し7,526億円となりました。販売費および一般管理費は、プロダクションプリンティング事業の長期性資産の減損95億円や構造改革費用341億円などにより、前年度に比べて1.7%増加し7,431億円となりました。またプロダクションプリンティング事業ののれんの減損損失274億円を計上しました。以上の結果、誠に遺憾ながら営業損失180億円、当社株主に帰属する当期純損失は、445億円となりました。

● 主要連結財務データ

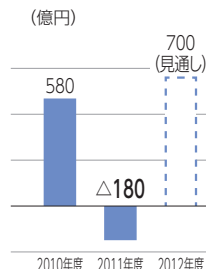
科目	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度(見通し)
売上高合計	22,199	20,916	20,158	19,413	19,034	19,200
うち海外	12,039	11,533	11,393	10,655	10,170	10,190
営業利益(損失)	1,815	745	659	580	△ 180	700
税金等調整前当期純利益(損失)	1,746	309	570	441	△ 319	625
当社株主に帰属する当期純利益(損失)	1,064	65	270	186	△ 445	330
設備投資額	852	969	668	668	732	830
研究開発費	1,260	1,244	1,093	1,105	1,190	1,170
総資産	22,143	25,134	23,779	22,555	22,893	—
株主資本	10,801	9,753	9,693	9,252	8,227	—
株主資本比率(単位: %)	48.8	38.8	40.8	41.0	35.9	—
1株当たり当社株主に帰属する当期純利益(損失)(単位:円)	146.04	9.02	37.27	25.68	△ 61.42	45.49
1株当たり株主資本(単位:円)	1,498.29	1,344.08	1,335.96	1,275.31	1,134.64	—
1株当たり配当金(単位:円)	33.00(16.00)	33.00(18.00)	33.00(16.50)	33.00(16.50)	25.00(16.50)	25.00(12.50)
(ご参考)						
為替レート(US\$)	114.40	100.55	92.91	85.77	79.08	75.00
為替レート(ユーロ)	161.69	143.74	131.21	113.28	109.05	105.00

- (注) 1. 当社の連結財務諸表は米国会計基準に基づいて作成しております。
 2. 1株当たり当社株主に帰属する当期純利益(損失)は、自己株式数を控除した期中平均株式数により計算しております。
 3. 1株当たり配当金は通期実績での金額を掲載しております。()内が、うち中間期の配当金となります。
 4. 一部子会社の決算期変更を行ったため、2009年度および2010年度の実績を遡及修正表示しています。

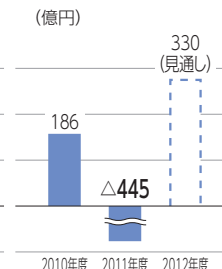
● 売上高



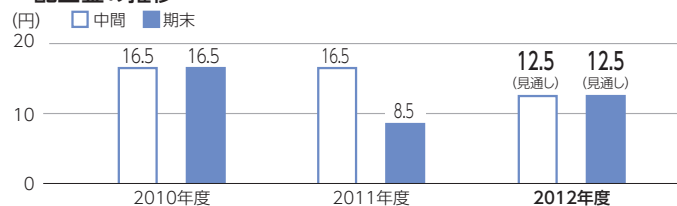
● 営業利益(損失)



● 当社株主に帰属する当期純利益(損失)



● 配当金の推移



● 部門別売上高

■ **その他分野**
1,361億円 7.1%

売上高は、HOYA(株)のペンタックス・イメージング・システム事業の買収により前年度に比べ11.7%増加し1,361億円となりました。

■ **産業分野**
965億円 5.1%

半導体事業およびサーマルメディア事業の売上高が前年度に比べ減少し、この結果、産業分野の売上高は前年度に比べ9.6%減少し、965億円となりました。

■ **画像&ソリューション分野**
16,707億円 87.8%

売上高は前年度に比べ2.4%減少し16,707億円となりました。

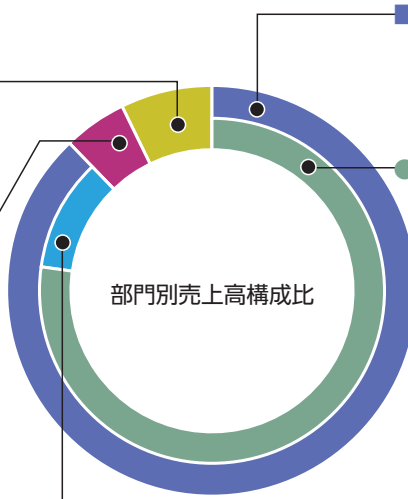
● **画像ソリューション**
14,718億円 77.3%

売上高は前年度に比べ3.9%減少し、14,718億円となりました。

MFPにおいてカラー機の売上高は堅調に推移し、プロダクションプリンティング事業においてもカラー機の売上高が伸長しましたが、モノクロ機の減少および為替の影響で減少しました。

● **ネットワークシステムソリューション**
1,989億円 10.5%

売上高は、ソフトウェアやITサービスなどが、欧州を中心に伸長し、前年度に比べ9.7%増加し1,989億円となりました。



● 地域別売上高

■ **日本** 8,864億円 46.6%

東日本大震災やタイの洪水によるサプライヤーの生産への余波や、電力供給不足、さらに円高などにより、当社を取り巻く環境は厳しいものでしたが、国内販売体制の再構築の成果などにより、前年度に比べ売上が増加しました。その結果、売上高は前年度に比べ1.2%増加し、8,864億円となりました。

■ **米州** 4,687億円 24.6%

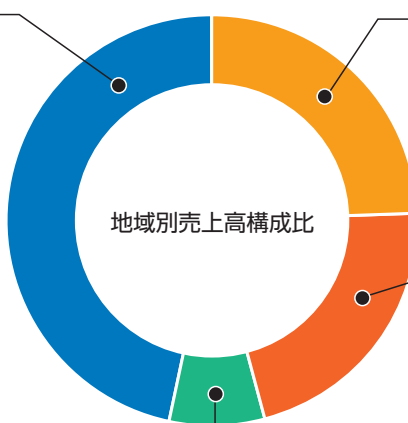
IKON社買収後の販売体制強化や販売チャネル拡大などが寄与しましたが、急激に進んだ円高の影響などにより、結果として、売上高は前年度に比べ9.9%減少し、4,687億円となりました。

■ **欧州** 4,085億円 21.5%

欧州における景気低迷、著しい円高ユーロ安を反映し、売上高は前年度に比べ1.6%減少し、4,085億円となりました。

■ **その他** 1,397億円 7.3%

新興国を中心に販売力強化を進めており、すべての分野において売上が前年度に比べ増加しました。その結果、売上高は前年度と比べ7.3%増加し、1,397億円となりました。



事業領域を拡げ、新しい価値を提供

お客様のニーズの一步先を見据えた製品・サービスでお役立ちします。

リコーグループは、200以上の国・地域にお客様をもち、世界のどこでも一貫したレベルの高いサービスを提供しながら、地域によって異なるニーズにもきめこまかく対応する販売・サービス体制を整えています。

たとえば、グローバル企業のお客様は、「世界に広がるオフィスの機器をトータルで管理してコスト削減したい」、あるいは中小企業のお客様は「IT専任の人員が足りないがもっとIT化を進めたい」など、さまざまな課題をお持ちです。リコーグループはそれぞれのお客様のニーズを深くみ取り、

それに応える機器やソフトウェアを取り揃え、導入後も課題解決を継続してサポートできるサービスを提供します。

お客様の働き方の変化はますます加速しています。リコーグループは、複写機／複合機やプリンターのみならず、オフィスのIT環境構築や運用支援、遠隔地との会議を手軽に行うことができるシステムなど、これからのオフィスにおけるコミュニケーションの未来までを見据えた製品、サービスにより、お客様に次々と新しい価値をお届けしていきます。

● 顧客提供価値の拡大



お客様のワークスタイルに革新をもたらす製品、サービスを提供。

- ▶ 超短焦点プロジェクター「IPSiO PJ WX4130」とビデオ会議システム「ユニファイドコミュニケーションシステムP3000」によるペーパーレス遠隔会議ソリューションを実現
- ▶ 雑誌や広告をiPhoneやiPad*で撮影するだけで、インターネット上のサービスにアクセスすることができるアプリ「**RICOH TAMAGO Clicker**」を提供



新興国市場での事業成長実現のために製品、販売体制を強化。

- ▶ 新興国市場で需要の大きい**A4複写機／複合機のラインアップを拡充**
- ▶ **ベトナムに販売会社を設立**



中国で開発された小型A4MFP[SP100SF]

お客様の環境負荷を低減する製品、サービスを提供。

- ▶ 業界最高水準の省エネ性能をもつ**カラー複写機／複合機**を発売
- ▶ **LED照明**の提供を開始
- ▶ 機器とサービスを組み合わせた**オフィス丸ごと省エネ提案**を実施



従来機と比べて22%の省エネを実現したカラー複写機／複合機[MP C5002]

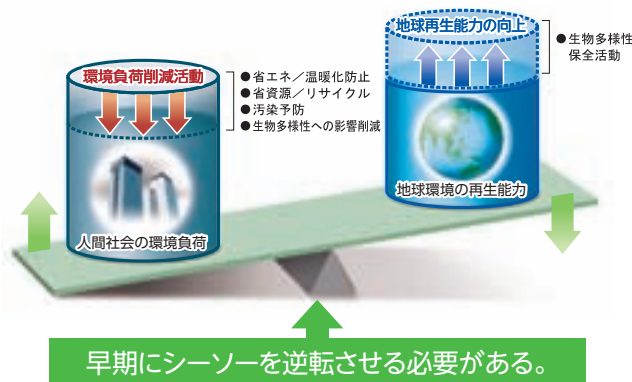
*iPhone、iPadはApple社の登録商標です。

経営のあらゆる側面に環境の視点を取り入れ、環境保全活動と経営活動を同軸で捉えています。

地球環境保全を継続的に行うために、環境負荷削減活動を通して利益を創出する必要があります。そのために、省エネに優れた製品の開発、省エネ・省資源活動を通じたコストダウン、将来枯渇が予測される資源の代替、業務効率の向上と環境負荷の極小化が図られたスマートなワークスタイルへの変革を促す製品やソリューションの提供、などに積極的に取り組んでいます。

地球環境とともに、持続可能な社会を構築するためには、「環境負荷を地球の再生能力の範囲内に抑える」必要があります。リコーグループは、事業活動によって排出される環境負荷の削減活動を推進するとともに、地球環境の再生能力の向上にも積極的に取り組んでいます。

● 環境負荷を地球の再生能力の範囲内に抑える



地球環境保全の効果をあげるためには、より高い目標を掲げ計画的に行動していくことが重要です。リコーグループは社会のあるべき姿を描き、その実現に向けた通過点として目標値を設定していくことによって、中長期の環境負荷削減目標を定め、環境保全活動を行っています。

● リコーグループ中長期環境負荷削減目標

省エネルギー/ 温暖化防止	CO ₂ 排出総量を2050年度までに87.5%、2020年度までに30%削減（リコーグループライフサイクル、2000年度比）
省資源/ リサイクル	①新規投入資源量を2050年度までに87.5%、2020年度までに25%削減（2007年度比） ②製品を構成する主要素材のうち、枯渇リスクの高い原油、銅、クロムなどに対し、2050年をめどに削減および代替を完了する
汚染予防	化学物質による環境影響を2050年度までに87.5%、2020年度までに30%削減（2000年度比）

事務機業界初、スクラップ鉄を事務機に 利用するための技術を開発

～環境負荷と材料コスト低減に寄与～

複合機の鋼板に、鉄スクラップを100%原料とする電炉鋼板を利用する技術を東京製鐵株式会社と共同で開発し、2012年度中に発売される複合機から採用を開始していきます。リコーは、持続可能な社会構築に向け、地球から新たに採取する資源を極力減らし、いく活動を積極的に進めています。

▶ http://www.rioh.co.jp/release/2012/0327_1.html



東京製鐵の電気炉

電炉鋼板を採用する
構造部品



再生可能なバイオマス資源の利用を促進させる 技術を開発

～安全、かつ低コスト、低環境負荷な
「ポリ乳酸の金属フリー低温連続重合技術」～

植物などの再生可能な資源から合成可能なバイオプラスチックとして注目される「ポリ乳酸」を高圧のCO₂（超臨界CO₂）および有機分子触媒の利用により、安全で高品質かつ低コストな製造を可能とする技術を静岡大の協力を得て開発しました。これによりバイオマス（植物）等の再生可能な資源の利用を促進し、持続可能な社会の構築に寄与できると考えています。

▶ <http://www.rioh.co.jp/info/120214.html>



本技術により生成されたポリ乳酸

■ 環境性能に優れた製品を迅速に開発・提供するために環境試験室の国際認定取得

大森事業所の化学エミッション試験室が国際認定を取得し、オフィス製品の使用時に求められる「騒音」「省エネ」「化学エミッション」の3つすべてにおいて、自社内の試験室で国際認定を取得しました。

▶ http://www.rioh.co.jp/release/2012/0214_1.html

■ お客様の省エネと業務効率アップを実現するデジタルカラー複合機発売

すばやい立ち上げを可能とする定着技術や低融点重合トナーなどの新開発技術を搭載したデジタルカラー複合機「imagic MP C5002」を発売。トップクラスの省エネ性能の実現によるオフィスの節電と業務効率向上に貢献します。

▶ http://www.rioh.co.jp/release/2012/0207_1.html

リコーグループは、長期的な視点に立った 価値創造CSRを強化しています

「リコーウェイ」では社会に対する使命として、「かけがえない地球を守るとともに、持続可能な社会づくりに責任を果す」ことを定めています。CSRのさまざまな活動は、この「リコーウェイ」の考え方に基づいて行われます。

リコーグループは長期的なありたい姿（～2016年）の達成要件をCSR側面に展開し、さらにステークホルダーダイアログ等を通じて認識した国際社会の動向や社会からの要請・期待をもとに、中計単位でCSR戦略を策定し、年度ごとに重点施策を設定しています。

社会がグローバル企業に求める役割を認識し、企業活動を通して企業の成長を図るとともに、持続可能な経済社会の実現に貢献することを目指して価値創造CSRを強化しています。

持続可能な社会と企業の成長の両立を目指す 価値創造CSR

我々を取り巻く国際社会には、地球環境問題をはじめとして、貧困や人権問題など社会全体で取り組まなくてはならない課題がたくさんあります。

それら社会的課題は要因が複雑に絡み合っており、政府やNGO・NPOなどの社会セクターだけでは解決が難しくなっています。

リコーグループは全世界で事業活動を行うグローバル企業として、より能動的に社会的課題の解決に大きく貢献できると考えています。



リコーグループは、CSRを社会的課題の解決と自社の成長の同時実現を目指す成長戦略と捉え、自社の技術や製品・サービス、人材などのリソースを活かし、社会的課題の解決に取り組むことで、イノベーションの創出や新たな市場開拓につなげることを目指していきます。

インド教育支援プログラム ～社会貢献とマーケティングの融合～

2011年5月から、NPOセーブ・ザ・チルドレンと協働して実施しているインド教育支援プログラム。インド南部にあるアンドラ・プラデシュ州メダック県の学校にデジタル印刷機を寄贈し、学習や情報共有に活用されています。また、子どもたちや先生、地域コミュニティ、行政の能力強化を行い、さらには、これら教育関係者のネットワークの構築も支援しています。

2011年度は、学校・教育機関に設置した10台の印刷機により、より多くの練習問題やテストを実施し、黒板に書く時間を教える時間に変えることで、授業の質向上につなげることができました。

また、対象となる63校で結成した「子どもクラブ」で子どもたちが学校の課題などを話し合うことで、積極的に学校の改善や地域の子どもの取り巻く課題解決に関わることができるようになりました。今後は、学校運営委員会など、地域の人々による学校改善の仕組み、関係者のネットワークの構築をより強化する予定です。

3年間のプログラムを通じて、より多くの子どもたちが継続的に学校に通い、地域の人々が自立的、持続的に教育環境の改善に取り組んでいけるようになることを目指しています。同時に、寄贈した印刷機の使用状況を把握し、未開拓市場におけるマーケティング情報の収集および潜在顧客とのネットワーク構築につなげています。



© セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

リコーインド社員から印刷機の使い方研修を受ける先生



子どもクラブに参加する生徒たち

インド教育支援プログラムWebサイト

▶ http://www.ricoh.co.jp/csr/india_edu/

リコーグループでは、さまざまな取り組みを行っています。
ここではその主なものをご紹介します。

01 リコーグループの カメラ事業推進体制を再編成

リコーグループでは、2011年10月1日ペンタックスリコーイメージング株式会社設立以来、RICOHブランドのカメラ事業をリコーが、PENTAXブランドについてはペンタックスリコーイメージング株式会社が推進してきました。この度、この体制を一新し、本年4月1日からは、コンシューマー向けカメラ事業をペンタックスリコーに、同時に、ペンタックスリコーの監視カメラ用レンズなどのセキュリティ関連製品事業と、業務向けカメラ事業をリコーに集約し、一般のお客様向け事業と官公庁・企業などを対象とした業務向け事業とに再編いたしました。

今回の組織機能変更により、顧客接点力の強化、開発リソースの最適配置、技術投資の方向性や業務プロセスの見直しなどを加速し、お客様により魅力ある製品・サービスを提供できる組織体制を整えることができると考えております。



PENTAX K-5



GR Digital IV

02 インドにITの研究所を設立



Ricoh Innovations Private Limited

リコーは、2012年2月15日インド南部のバンガロールに、新たにIT分野の研究会社 Ricoh Innovations Private Limited (RIPL)を設立いたしました。RIPLは、米国シリコンバレーにあるリコーの研究開発に関する完全子会社 Ricoh Innovations, Inc. (RII) の子会社です。RIPLでは、RIIやリコーで長年培ってきた最先端のITコア技術を、まずインドのニーズに適用し、現地発のITソリューションを創造します。さらに、将来的には類似の環境をもつ市場向けの事業機会を探索します。

12億人の人口を抱えるインドは、着実な経済成長を続け、各国間の物価水準の格差を取り除いた実質的な購買力を示す購買力平価ベースのGDPで日本に次ぐ世界第四位となっています。ITインフラが急速に改善するに従い、仕事でも日常生活でも、モバイル環境でのインターネット活用が急激に拡大すると予想されます。RIPLは、現地のニーズと革新的技術の融合を図り、新たなITソリューションの可能性を追求していきます。

03 カラープロダクションプリンター「RICOH Pro C901/901S」省エネ大賞受賞

カラープロダクションプリンター「RICOH Pro C901/901S」が、財団法人省エネルギーセンター主催 平成23年度「省エネ大賞」の製品・ビジネスモデル部門において「省エネルギーセンター会長賞」を受賞しました。

本表彰は、企業・自治体・教育機関等における優れた省エネ活動や技術開発等による先進型省エネ製品等を表彰するものです。

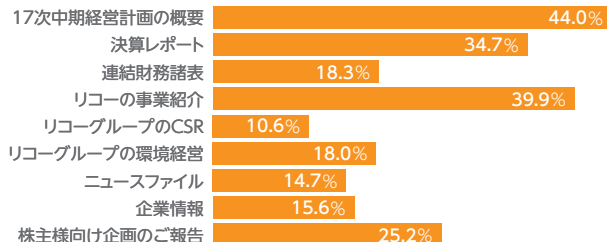
「RICOH Pro C901/901S」は、プロダクションプリンティング市場（商業用・業務用印刷の大型プリンター市場）のお客様をターゲットとした、オンデマンド印刷対応の高速フルカラープリンターです。トナーの低融点化や定着機構の改良等の省エネ設計により、国際エネルギースタープログラムで規定されているTEC値（標準消費電力量）基準を、1分あたり90ページという高速印刷の製品では業界で初めてクリアしました。高生産性、高画質を要求される商業用・業務用印刷市場においても、リコーの製品は省エネを実現しています。

RICOH Pro C901



「RICOH REPORT2011(冬号)」にて実施いたしましたアンケートに対して、2,389名の方からご返信をいただきました。ご協力いただきました株主の皆様へ御礼を申し上げますとともに、その集計結果の一部をご報告いたします。

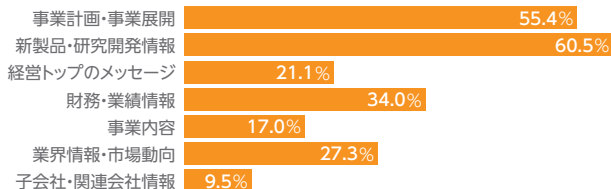
Q1 「RICOH REPORT 2011(冬号)」の中で興味を引いたのはどの記事ですか。(3つまで)



「17次中期経営計画の概要」では、44%と株主の皆様のご関心が強く、このアンケート結果を踏まえ、本誌(p3-8)では前回よりページ数を増やし、トップメッセージとして「17次中期経営計画の概要」とその経過をご報告しております。

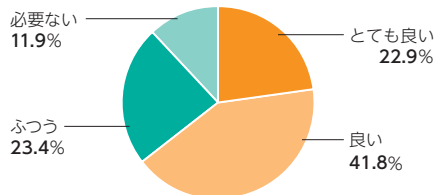
また、2番目に多かった「リコーの事業紹介」においては、今回は本誌(p9-10)で、お客様のニーズの一步先を見据えた製品・サービスについてご紹介しております。

Q2 リコーについて知りたい情報は何か。(3つまで)



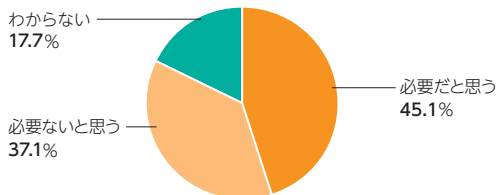
「新製品・研究開発情報」「事業計画・事業展開」について知りたいというお声が多かったことを受け、本誌(p10)では、お客様に新しい価値を提供する製品・サービスの紹介を、p15-16リコーグループのカメラ事業推進体制などをご紹介しております。

Q3 今回初めてカメラの「株主様 特別限定販売のご案内」を同封いたしました。どのように感じられましたか。



今回初めてご案内した「株主様 特別限定販売」について約65%の株主の皆様から、高評価をいただきました。今後も引き続き、充実したラインナップを取り揃えご案内してまいります。

Q4 現在、当社の単元株数は、1,000株ですが、単元株数を100株にすることについてご意見をお聞かせください。



単元株数の引下げは、株式市場への幅広い投資家の参加を促し、株式の流動性を高めるための有効な施策のひとつであると理解しております。しかしながら、当社株式の取引につきましては、現時点においても多くの投資家にご参加いただけているものと判断しており、直ちに引下げを実施することは予定しておりません。今後につきましては、取引参加者や株主構成の状況を注意深く見守りながら、実施の必要性について検討してまいります。

株主の皆様からのご意見・ご要望は、今後の株主施策やIR活動の参考とさせていただきます。今後も皆様とのコミュニケーションの一環として、アンケートを行ってまいりますので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

リコーでは、株主の皆様へ当社に対するご理解を深めていただくため、株主の皆様とのコミュニケーションを図る企画を開催しております。



事業所見学会

満足度 **97.1%**

良かった **97.1%**

どちらでもない **2.9%**

2011年12月9日(神奈川)、ご応募いただいた中から抽選で選ばれた株主の皆様(40名)をご招待し、本社事業所および御殿場事業所の見学会を実施いたしました。当日は、本社にてプリンティングイノベーションセンターにてプリンティングソリューションをご体験いただきました。その後、バスで御殿場事業所に移動し、社員食堂にて昼食をとり、午後からは生産ラインをご見学いただきました。

株主の皆様からは、「5S活動の成果のためか工場内にゴミが1つも落ちていないほか、節電、省エネ、作業改善等が良く行われていて、環境も良く非常に働きやすい職場に感じました。」「見学させていただき工夫をこらした現場を拝見し、またゴミの削減や環境に配慮した取り組みに感心しました。世界を相手に大変だと思いますが頑張ってください。」といったご感想を頂戴しております。



リコーフィル演奏会

満足度 **94.6%**

良かった **94.6%**

悪かった **0.9%**

どちらでもない **4.5%**

2012年2月19日(東京)、ご応募いただいた中から抽選で選ばれた株主の皆様(ペア150組300名)を「リコーフィルハーモニーオーケストラ第51回演奏会」にご招待いたしました。

株主の皆様からは、「アマチュアの演奏とは思えないコンサートでした。文化活動、社会貢献は素晴らしいと思います。」「元気の良いリコーフィルの演奏を楽しめました。リコーという会社の社風を感じられました。」といったご感想を頂戴しております。



ラグビー観戦会

満足度 **99.4%**

良かった **99.4%**

悪かった **0.0%**

未回答 **0.0%**

どちらでもない **0.6%**



2012年1月22日(大阪:NTTドコモレッドハリケーンズ戦)、ご応募いただいた中から抽選で選ばれた株主の皆様(ペア250組500名)をリコーラグビー部BlackRamsの試合にご招待いたしました。当日は株主の皆様のご声援により、68対21で勝利を飾ることができました。

株主の皆様からは、「選手の皆様も動作がぎびぎびしていて、得点する度に思わず拍手をしてしまいました。」「ラグビー観戦は初体験でしたが、生で観る肉弾戦の迫力とスピード感に圧倒されました。一瞬でラグビーファンになりました。」といったご感想を頂戴しております。

*応募者多数のため、次回より単元株式ご所有の株主様にのみご案内させていただきます。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月下旬

基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日

株主名簿
管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先
(電話照会先) 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
TEL(0120)782-031(フリーダイヤル)
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の
全国各支店で行っております。

■住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別
口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

■未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

■「配当金計算書」について

配当金お支払いの際送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法
の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その
添付資料としてご使用いただくことができます。
ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては
は、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際
の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。
なお、配当金領収証にて配当金をお受取の株主様につきましても、配当金
のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申
告をなされる株主様は大切に保管ください。

INFORMATION

WEBサイトのご案内 <http://www.ricoh.co.jp/>

当社では、最新のニュースやIR
情報、製品情報など当社をご
理解いただくためのさまざまな
情報をご提供しています。



社会的責任(CSR) ●
環境経営 ●
IR/財務情報 ●
ニュースリリース ●

今後のIRスケジュール(予定)

当社では迅速かつ正確な情報開示を心がけるほか、投資家の皆
様に向けたさまざまな活動も行っています。以下は当社の今後
のIRスケジュールになります。ご参考の上、引き続きご支援いた
だけますようよろしくお願いいたします。

なお、予定は予告なく変更される場合がございます。



電子ブック版RICOH REPORT

1年に2回、株主の皆様のお手元にお届け
している「RICOH REPORT」をホームペ
ージ上に電子ブックで掲載しています。



株式会社リコー

〒143-8555 東京都大田区中馬込一丁目3番6号
TEL (03) 3777-8111



この報告書は、NPO法人カ
ラーユニバーサルデザイン機
構により色覚の個人差を問わ
ず、多くの方に見やすく配慮さ
れたデザイン(カラーユニバー
サルデザイン)として認定され
ました。



見やすく読みまちがえ
にくいユニバーサルデ
ザインフォントを採用し
ています。